

# 南海トラフ巨大地震に備えて緊急避難路及び避難スペースを整備しました

国土交通省 四国地方整備局 大洲河川国道事務所 道路管理課

## 1. はじめに

大洲河川国道事務所においては、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波被害を教訓に、今後、高い確率で発生が予測されている南海トラフ巨大地震に備えて、津波等被害発生時に道路利用者や沿道住民の高所への緊急避難を想定して、「緊急避難路及び避難スペース」としても利用可能な「道路点検用通路」の整備を進めており、現在、愛媛県宇和島市の国道56号宇和島道路に、3箇所整備しています。



この地図は、国土地理院長の承諾を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平20業復第7号)

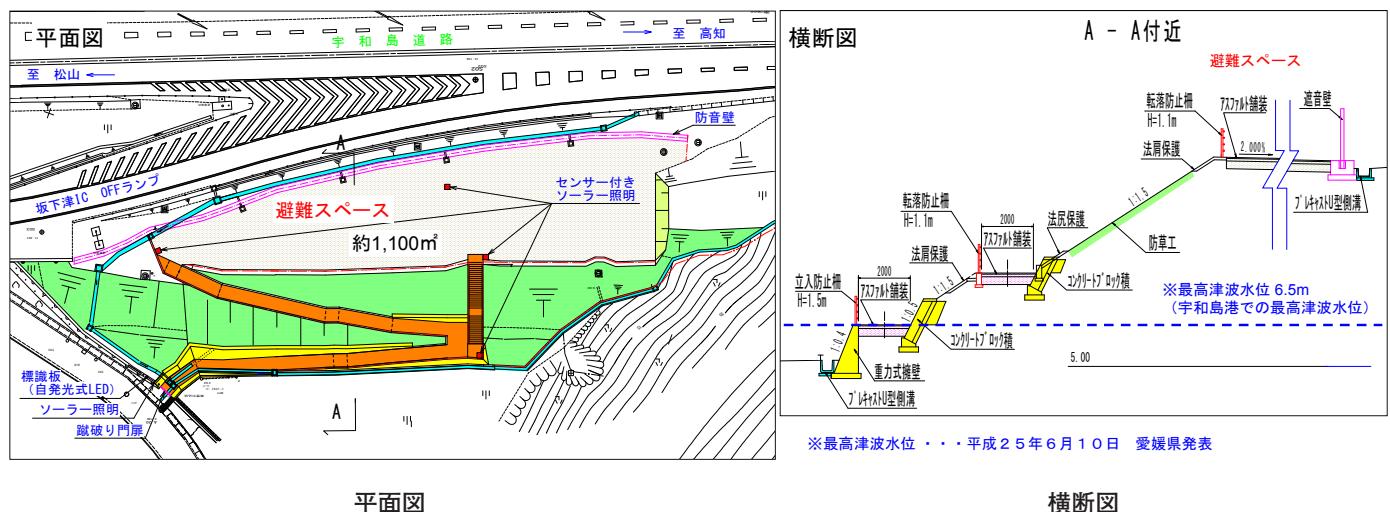
位置図

## 2. 緊急避難路の施設概要について

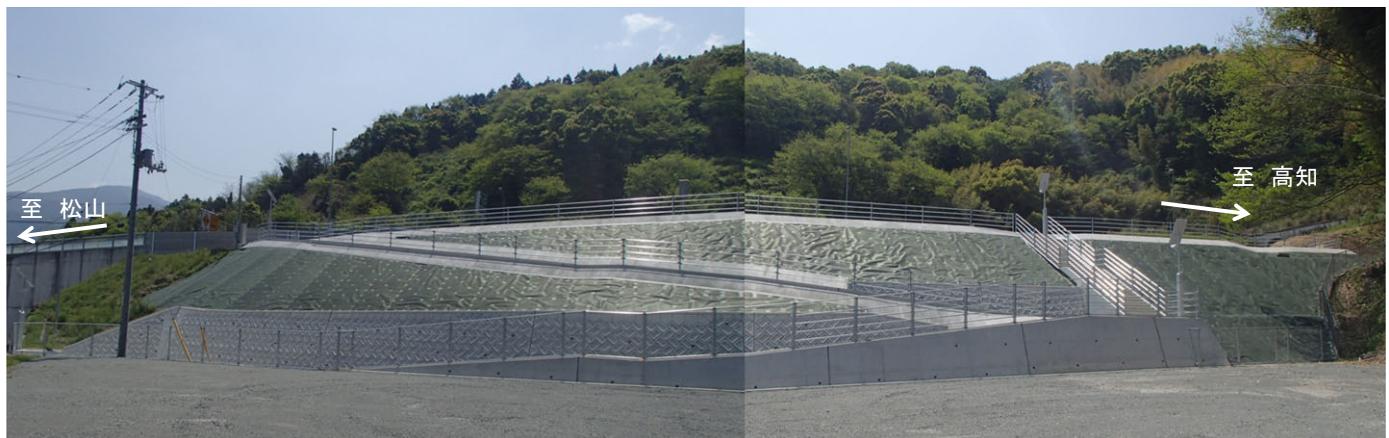
国道 56 号宇和島道路は、完成 4 車線計画ですが現在は暫定 2 車線で供用を行っており、今回は未供用部分を活用して緊急避難路及び避難スペースを整備しました。



### 1) 愛媛県宇和島市坂下津（平成 25 年 3 月完成）



坂下津地区は、元々、道路構造が盛土であったことから 12% 勾配のスロープと階段を組み合わせた構造とし、避難スペースは約 1,100 m<sup>2</sup>あることから約 550 人の避難人員を収容可能と考えています。また、夜間での避難を想定して 5 基のソーラー式 LED 誘導灯を設置して平成 25 年 3 月に整備を完了しました。



緊急避難路全景写真



避難スペース



緊急避難路入口

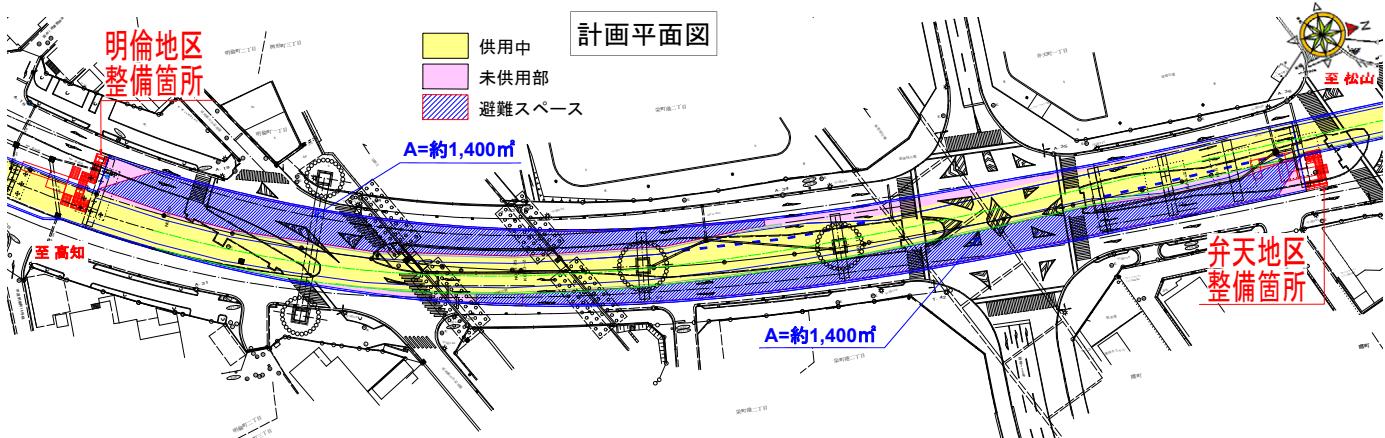


ソーラー式 LED誘導灯



スロープ（手摺り付き）

## 2) 愛媛県宇和島市弁天町・明倫町 (平成 25 年 12 月完成)



弁天・明倫の両地区は、この区間で供用車線が上下線をシフトしており、上部工を完成 4 車線分架設していることから、供用部の両側にそれぞれ未供用スペースがあり、これを避難スペースとして利用する計画としています。

橋脚に階段をブラケット式で取り付け、高架橋の橋面に上がる構造とし、避難スペースが両区間で約 2,800 m<sup>2</sup>あることから約 1,400 人の避難人員を収容可能と考えています。また、夜間の避難を想定して 18 基のソーラー式 LED 誘導灯を設置して平成 25 年 12 月に整備を完了しました。



### 3. 避難訓練について

愛媛県宇和島市坂下津の緊急避難路を利用した、坂下津地区の地域住民が参加する避難訓練を宇和島市と協力して平成25年7月28日に実施しました。訓練当日は、雨にもかかわらず宇和島市長を始め坂下津地区の住民が約80名、スタッフが30名参加しました。

訓練では、徒歩による避難の他、車椅子や担架を使用した避難、また門扉の蹴破りなども訓練しました。

また、平成26年2月には愛媛県が南海トラフを震源とする巨大地震を想定した津波避難訓練を宇和島市全域で実施する予定であり、その際には今回整備した緊急避難路を使った訓練を実施する予定です。



門扉の蹴破り状況



住民の避難状況



車椅子・担架を使った避難状況



住民の参集状況

### 4. さいごに

今後の取り組みとしては、緊急避難路として活用できそうな箇所が他にないか検討を行い、適地があれば地元自治体と調整して順次整備を進めていきたいと考えています。

また、今後も地元自治体と協力して緊急避難路を活かした避難訓練を実施することで、住民の方々に緊急避難路の存在を認識して頂き、緊急時に迅速な避難行動がとれるようにしていきたいと考えています。また、住民以外の道路利用者にとっても避難場所の1つの選択肢にしてもらえればと考えています。